【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成21年6月25日(2009.6.25)

【公開番号】特開2008-80717(P2008-80717A)
【公開日】平成20年4月10日(2008.4.10)
【年通号数】公開・登録公報2008-014
【出願番号】特願2006-265217(P2006-265217)
【国際特許分類】
Ｂ３２Ｂ　27/36　(2006.01)
Ｂ２９Ｃ　55/30　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　23/02　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　75/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ３２Ｂ　27/36
Ｂ２９Ｃ　55/30
Ｃ０８Ｌ　23/02
Ｃ０８Ｌ　75/04

【手続補正書】
【提出日】平成21年5月8日(2009.5.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
非晶状態の熱可塑性ポリエステル系樹脂シートを、該熱可塑性ポリエステル系樹脂のガラス転移温度－２０℃～該熱可塑性ポリエステル系樹脂のガラス転移温度＋２０℃の温度で引抜延伸した後、該引抜延伸温度より高い温度で一軸延伸して得られた延伸熱可塑性ポリエステル系樹脂シートの両面に熱可塑性樹脂層がグリシジル（メタ）アクリレート－オレフィン共重合体組成物により接着されていることを特徴とする積層成形体。
【請求項２】
熱可塑性樹脂が塩化ビニル樹脂であることを特徴とする請求項１記載の積層成形体。
【請求項３】
グリシジル（メタ）アクリレート－オレフィン共重合体組成物が、グリシジル（メタ）アクリレート－オレフィン共重合体１００重量部とウレタン樹脂２０～４００重量部よりなることを特徴とする請求項２記載の積層成形体。
【請求項４】
延伸熱可塑性ポリエステル系樹脂シートの表面が表面酸化処理又は表面加水分解処理を施されていることを特徴とする請求項１～３のいずれか１項記載の積層成形体。
【請求項５】
表面酸化処理が、コロナ放電処理又はクロム酸処理であることを特徴とする請求項４記載の積層成形体。
【請求項６】
積層成形体が、外装建材であることを特徴とする請求項１～５のいずれか１項記載の積層成形体。